



先進事例の実績などを踏まえた、国内の水処理メーカーが参加の意向を示しております。

**関委員**

参加意向を示した業者は何社あったのですか。

**上水道施設課長**

今回の調査では5社に調査しておりまして、5社全社が参加の意向を示しております。

**関委員**

その5社からおおまかな見積りを取り選定していくということになるのでしょうか。

**上下水道部長**

5社から参考見積りはいただいておりますが、あくまでも直営と民間の費用を比較するためのものであり、受注者については、来年度以降、プロポーザルで公募し、具体的な提案書などを審査した上で選定される予定です。

**関委員**

業者が決定するのは何年度くらいになるのですか。

**上下水道部長**

現時点で、業者選定には、1年半ほど時間を要すると考えております。遅くとも、平成30年度の上半期までには、業者の選定計画まで進めないと、工期が間に合わないと思います。

**関委員**

工事全体の計画、段取りは平成29年度中に決まるのですか。

**上下水道部長**

決めます。平成29年度に、プロポーザル方式で公募する中で、水準書を示すこととなります。

**関委員**

その内容については市民に対して広報されるのですか。

**上下水道部長**

プロポーザルの実施については、市のホームページに掲載しますので、どなたでもご覧になることができます。

### **関委員**

以前の会議では、新樋の口浄水場は、平成35年度から稼働する予定であると伺っておりましたが、今の説明では36年度から供用開始ということで、計画が変わったのですか。

### **上下水道部長**

以前説明したスケジュールから、実際始まった時点は1年ずれ込んでおりました、36年度供用開始ということが、現時点での目標です。

### **齋藤委員**

平成36年度に供用開始を目標にしているということですが、そうすると、水道料金の値上げなどが予想されますが、市民へのお知らせについては、いつ頃になりますか。

### **上下水道部長**

水道料金の話は、非常にデリケートな内容になります。新樋の口浄水場建設事業を着手した段階で、多額の費用が発生します。だからといって、すぐ値上げということには、簡単には踏み込めないと思います。この経営審議会、市議会、そして市民に対して、資金計画を十分に練った上で説明しながら、理解を得なければなりません。その時期については、現時点でははっきりと示すのは難しいですが、今後、料金転嫁をすることは避けられないことだと考えております。

公営企業は、国からさまざまな宿題を出されています。例えば、厚生労働省からは、水道ビジョンの推進、見直し、また、水道事業広域化に向けた検討、そして総務省からは、公営企業の安定した継続のための経営戦略策定を指示されています。

また、市の最上位計画である弘前市経営計画は、来年度で4年の区切りがつき、30年度から新しい経営計画が始まります。

水道ビジョンの見直し、広域化の検討、経営戦略の策定、そして弘前市経営計画の見直し、この4つの取組みを整理していく中で、水道料金のあるべき姿が浮き彫りになってくるものと思います。

### **齋藤委員**

その時期が来ましたら、なるべくわかりやすい説明をお願いします。

### **佐々木委員**

当初、35年度供用開始でスケジュールを立てていたところを、36年度に変更されたということですが、現段階では、スケジュール通りに進んでいますか。36年度以降になる可能性はないと考えていいですか。

**上下水道部長**

36年度供用開始を目標に、スケジュール通りに進めています。

**佐々木委員**

それから、官民連携方式をとったことで、コスト削減によるメリットが大きいということですが、そのほかにメリットとして考えられることはあるのでしょうか。

**上水道施設課長**

コストがかなり膨らみますので、一番効果が出るのは、コスト面と考えております。

**小林委員**

総事業費の圧縮が期待できるということですが、ほぼ圧縮できると考えてよろしいですか。圧縮されない可能性もあるのでしょうか。

**上下水道部長**

圧縮できると考えていただいてよろしいと思います。

**(2) - 1 平成27年度決算について（水道事業会計）**

水道事業会計の決算について事務局より説明。各委員との質疑応答は以下のとおり。

**齋藤委員**

補てん財源が、水道料金のいわゆる貯金ということで、この半分くらいの額を補てんしていますが、貯金が増える可能性はありますか。

**総務課長**

収益的収支のところで、4億9400万の純利益を積み上げていくことと合わせて、毎年発生する減価償却費、これは経費ではありますが、現金の支出を伴わないので、その分を補てん財源にあてることとなります。

**関委員**

関連して質問します。27年度の水道事業の純利益は約5億円ですね。この5億円は補てん財源にもう入っていると考えればいいのですか。

**総務課長**

平成28年度の補てん財源に入っております。

**関委員**

次の年度の会計に入るといことですね。補てん財源の半分くらいが、補てんになったといことですね。過去の水道事業の流れをみると、26年度、27年度は13億の補てんとなつていますが、平成28年度も13億の補てんになるとすれば、約5億円の純利益が補てん財源に入ったとしても、8億円足りないこととなります。このことについて、今後の見通しはどうかつていますか。

**総務課長**

補てん財源の中には、減債積立金といまして、企業債、つまり大きな借金の返済のために積立てるとい制度があります。その積立てたものを、また補てん財源の中に入れていくとい仕組みです。企業債の借入れ額が大きいので、経営に影響を与えないようにするために、減債積立金とい定期預金のようなものを積立てています。それが平成27年度では、合計で4億2千万ほどです。

**関委員**

単純にいうと来年度は8億足りませんが、その積立金で足りるのでしようか。

**総務課長**

減価償却と今までの純利益の積み立ても含めて、同じくらいの補てん財源になると考えています。

**関委員**

平成28年度も13億の補てんがあつたとしても、十分対応できると解釈してよろしいですか。

**総務課長**

はい、大丈夫です。

ただ、今後、公益化や老朽管更新事業など、前倒しして進めないといけないといことがあれば、事業費が膨らんでくるので、そうなつた場合は、財政の見通しを作り直さないといけません。

今年度からアセットマネジメントを導入し、来年度はアセットマネジメント計画を策定し、今後20年、50年の長い経過の中で、どのくらいの財政レベルであれば、どれくらいの事業ができるかといことを、来年度以降は示せるかと思ひます。それに合わせて、限られた収入の中でどのくらい効果的な事業をやるかといことを、来年度に財政計画も含めてやっていきたいと思ひます。

**関委員**

老朽管更新事業は、金額は毎年違いますが一定額は必ず必要な金額ですよね。現実には次々に老朽管化していますし、主要管路耐震化事業なども必ず必要な経費です。今は補てん財源の残高が13億あって維持できていたかもしれませんが、今後、次々と古い管を取り替えて、耐震化も進めていくという必要があり、事業内容を考えながらやりくりしていくのは、財政が厳しい中大変だと思いますが頑張ってください。

**上下水道部長**

関委員からご指摘があった通り、補てん財源が枯渇すると資金ショートとなり、企業として成り立たなくなるので、先程ご説明した4つの計画の中の短期・中期・長期的な計画をしっかりシミュレーションして、企業破綻しないように今後進めていかなければいけないと思います。

**(2) - 2 平成27年度決算について（下水道事業会計）**

下水道事業会計の決算について事務局より説明。各委員との質疑応答は以下のとおり。

**関委員**

資料に記載されている主な事業の、中継ポンプ場改修事業についてですが、25年度は約600万あって、26年度に2倍くらいの約1550万、27年度は26年度に比べると10倍以上の約2億円になっているのですが、これはどういうことなのでしょう。

**下水道施設課長**

25、26年度には業務委託でこの金額です。中継ポンプ場の改修にかかる業務委託を2か年でやって、27年度から実際に改修事業が始まったのでこのようになっています。

**関委員**

業務委託が26年度までであったということですか。

**下水道施設課長**

はい。27年度から、本格的に改修事業が始まったということでこのようになっています。

**関委員**

それで金額がはね上がったという事ですね。25、26年度のポンプ場改修の業務委託は、上下水道事業の包括業務委託の中に入っていないのですか。

### 総務課長

包括業務委託は、料金業務などの営業関係と、修繕業務関係を委託しているものです。

### 関委員

先程と同じような質問ですが、下水道事業の方も収支不足額という言葉で表していますが、約22億の補てんですね。補てん財源の残高は約6億円しかないので、積み立てがあったとしても、28年度もまた23億の補てんとなれば、水道事業よりも厳しいという状況になりますが、この見通しや対応策を詳しくお話いただけますか。

### 総務課長

大きな借金の返済に向けて、減債積立金や減価償却などを継続していきますが、状況は確かに厳しいです。今後事業をやっていく上で、企業会計上有利な負債にしていくと共に、包括業務委託のような、コスト削減になるような取組みをしていく予定です。

上水道事業ではアセットマネジメント計画を策定中ですが、下水道事業ではストックマネジメントという計画を今後作っていくこととなります。国から補助金が交付される基準にもなりますので、限られた財源の中でどのように事業を進めていくかを長期的な視点でストックマネジメント計画を検討していきたいと考えています。

### 関委員

課題は借金財政であるということですよ。対応はできるけれど、決して余裕はないということですね。そういう現実であるということを確認しました。

### 上下水道部長

少し補足しますが、水道、下水道に共通して言えることですが、資料の減価償却費等という項目の額は、実際にお金を払っているわけではありません。建設したものや、購入したものを毎年償却し、その償却額は、補てん財源に自動的に移行されます。資金ショートというのは、財産がなくなれば可能性はありますが、今後も、老朽管の新設、主要管路の入れ替え、中継ポンプ場の新設など、新たなものを造っていきます。その新たな資産について、年数をかけて、1年ずつ償却した分を積み上げていきます。例えば100億円規模の事業を1年で行うなどの、よほどの大きな事業がない限り、資金ショートというのは無いと思います。資料だけで見ると、来年度以降も大変なのではないかと危惧されるのは当然のことですが、実際の会計の中身からすれば、現金が枯渇することは当面無いという風に考えていただければと思います。

### 関委員

減価償却費について、詳しく聞いたのは初めてでしたので、よくわかりました。要するに、耐震管や老朽管の更新があれば、それが一旦財産になるということですね。そして少しずつ償却していくことで、なんとかまわっているということなのですね。

### 上下水道部長

このことをうまく利用してまわしていかないと、企業会計としては資金ショートという道に入っていく可能性があります。

### 関委員

話は少し戻りますが、先程、よほど大きな事業がない限り、資金ショートはしないという説明がありましたが、新樋の口浄水場は、想定するには100億規模ですよ。その100億規模の大事業が、もし途中で災害や様々なアクシデントで、平成36年度に完成出来ないとか、工期がずれ込んだ場合は、弘前市民としては非常に困るのです。企業会計の説明はわかりましたが、今の樋の口浄水場は限界が近づいているということで、新樋の口浄水場は、上下水道部としても、弘前市としても、何十年かに1度の大事業になると思いますから、慎重に進めてほしいと、一市民として思います。

### (3) その他

### 総務課長

前回、委員から要望のありました、災害時における初動対応マニュアルについて説明します。

(説明)

### 飯島会長

この初動対応マニュアルに沿って対応されたことは、過去にどのくらいあるのでしょうか。

### 総務課長

地震については、東日本大震災の時にこの体制はとっております。それ以外は風水害の関係で対応をとっております。それから平成24年度に異臭味問題がありましたが、その時は職員だけでは足りませんでしたので、各事業の方にご協力をいただきながら対応しました。

### 飯島会長

非常体制や警戒体制くらいに同位するような対応をしたことは、具体



的に何があったのでしょうか。

### **総務課長**

異臭味問題のときに、市内9か所に給水拠点を設置し、給水活動をしております。ジェオスミン、2-MIBという異臭味物質により、水道水の匂いや味に影響が出ましたので、給水活動をしました。

### **飯島会長**

訓練などはされているのですか。

### **総務課長**

毎年、市の防災訓練があり、その際に、漏水、地震などを想定した訓練があります。

### **関委員**

これだけ綿密に各課の体制が整備されていて、非常に素晴らしいマニュアルだと思います。

先日、博多でとんでもない事故があり、水道にも影響がありました。いつどこで何があるかわからない昨今の状況ですから、地震や風水害など、何らかの想定をして、上下水道部独自の訓練も必要ではないかと思えます。また、このマニュアルについて、概要だけでもインターネットなどで情報公開してもらえたら市民も安心だと思うので、ご検討をお願いします。

### **齋藤委員**

夏に、水道週間のイベントをヒロロでやっていましたよね。覗いてみたら、災害時の給水活動の様子のパネル展示などをしていて、このような活動がわかるイベントを、また機会をみてやってもらいたいと思えます。

### **上下水道部長**

上下水道は地下に埋まっているライフラインです。博多駅前の地下鉄工事に起因する陥没事故など、想定外のことが起きることがあり、当市の場合も全くないとは言えない事例です。

これまでは何かあれば、その課なり、担当部署での対応でしたが、老朽化対策を先取りできるくらいの体制をまず進めて、予防線的な維持管理体制にシフトさせ、マニュアル等を市の内部だけで完結させるのではなく、広く市民に情報発信していかなければいけないと思えます。水道ビジョンにも掲げていますが、ライフラインとしての上下水道事業の取組みを、よりわかりやすく、ヒロロで行った水道週間イベントやカルチャロード等でPRしていきたいと思えます。

**関委員**

その他にいくつか質問があります。上下水道部のホームページは、以前に比べて変わっていますか。

**上下水道部長**

今年度に入りまして、できるだけふんだんに絵柄、写真を取り入れ、市民にやさしい言葉を選んでホームページの内容を更新しました。

**関委員**

後で拝見します。それから、以前郵送でいただいた、包括業務委託の資料についてですが、中身が概要的な説明にとどまっており、どの業務にどれだけの費用がかかっているのかがわかりません。その情報を提供していただきたかったのです。

**村上委員**

包括業務委託ということですから、スタートの段階では、何の業務にいくら費用がかかっているのかは見えないのかなと思います。今年度から始まっていますし、1年通した後、中身がどうだったのか整理する意味では、関委員がお話したようなことは必要なのかと思います。

**総務課長**

今回の資料は、簡潔なものではありますが、包括業務委託全体の概要について、委員の皆様にお示ししました。

実際に委託をしてきた中で、メリットも出てきています。例えば、滞納整理などは直営の時期よりも滞納金が回収できております。また、岩木庁舎、本庁にお客さまセンターの窓口を設置していますが、本庁にも窓口があることによって、重宝しているなどの意見をお客様からいただき、包括業務委託したことによって、いろいろな効果が出てきつつありますので、1年間を通してみれば、どのような効果があったかを皆様に報告できると思います。

**関委員**

包括業務委託は、1社だけに全部を任せているのですか。1年間が終わると、業者から資料などが提出されるのですか。

**総務課長**

1社との契約です。毎月報告会議を開き、受注者から報告書を提出してもらい、その報告書を基に双方で問題点などを検討しています。

**関委員**

そうなのであれば納得しますが、ただ、1社に5年間の契約という事であれば、思い切った契約だったのではと思います。毎月打ち合わせをしているということはいいのですが、できれば市民に対しても、包括業務委託に関する情報について、示せる部分の情報は流してもらいたいと思います。

#### **総務課長**

補足ですが、1社と契約するまでの経緯がありまして、まず、修繕関係の業務については、公募で地元の業者に決まりました。営業部門の業務については、地元で専門の業者がありませんでしたので、営業部門に長けている業者を全国から公募して決めました。その2社で設立した特別目的会社へ委託しています。この特別目的会社は、当市の包括業務委託のみを運営していますので、基本的に倒産することはないと思います。

#### **関委員**

わかりました。最後に、話しぶらいことを申し上げますが、10月29日付の新聞記事に、上下水道部が下水道工事の予定価格を誤ったということが記載されています。どうしてこのようなことが起きたのか、ご説明をお願いします。

#### **総務課長**

入札についての事務処理ミスです。判明したのは10月27日です。10月25日に入札を執行しました2つの工事の、それぞれの予定価格調書の金額が誤っていたということです。その事実がわかりましたので、入札を取消して再度執行するということになりました。今月の末に再入札をする予定です。

原因は、予定価格調書に金額を記入する際に、誤った金額を記載したということが1つ、もう1つは誤った金額をチェックする体制が機能していなかったということで、ミスがそのまま見過ごされてしまったということです。

再発防止対策、改善策としましては、今回の2つの工事の入札だけではなく、すべての入札において、再度見直して、チェック体制を強化しました。今回の入札時のミスは、変動型という今年4月から導入したのですが、今まで2人で入札執行していたものを3人体制にしました。

#### **関委員**

チェックする機能が働かなかったということですが、その時にチェックする人は何人いたのですか。

	<p><b>総務課長</b>      予定価格調書に職員が記載したものを部長決裁し、封緘したものを、入札執行時に開封します。入札は、2人の職員が執行していましたが、見過ごしてしまったということです。</p> <p><b>関委員</b>      本人のミスとチェックする人の二重のミスということで間違いないのですね。このような場合は、何か処分はあるのですか。</p> <p><b>総務課長</b>      現時点では処分の対象にはなっておりません。</p> <p><b>関委員</b>      一市民としての感想になりますが、言葉が厳しいかもしれませんが、仕事に対する緊張感が足りないと感じました。後で報告される予定だったのかもしれませんが、これまでこのことについてお話がなかったので、あえて申し上げました。</p> <p><b>上下水道部長</b>      ただいまの事務処理ミスに関しては、私が統括する立場として深く反省しております。即日、体制の立て直し等を含みいろいろ正して、部をあげて再発防止に臨んで参ります。このたびはご心配をおかけして誠に申し訳ございませんでした。</p> <p><b>飯島会長</b>      他に案件がないようでしたら、以上をもちまして、会議を終了します。</p> <p><b>3 上下水道部長挨拶</b></p> <p><b>4 閉会</b></p>
<p>その他必要事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議は公開。</li> <li>・傍聴者は2名。</li> <li>・報道機関取材は2社。</li> </ul>